

東海道線パンタグラフ損傷で9時間半 停車！仮設鋼材直撃の恐れあった？

東海道本線で12月12日、名古屋～枇杷島駅間で走行中の電車のパンタグラフと架線が損傷し、9時間以上におよぶ運転見合わせが発生しました。会社のホームページによれば、幸田駅の下り線で架線工事の際に取り付けた鋼材が、固定ボルトの破損で垂れ下がり、鋼材に接触して損傷したパンタグラフが架線を破損させたとのこと。長時間の運転見合わせによる影響が大きかったことの他にも、鋼材やパンタグラフの部品の落下、直撃で、乗務員や旅客、沿線住民の方にも被害が及ぶ恐れがあった危険な事象です。

本部は、原因究明と対策実施について労使協議を開催するよう、申第28号で会社に申し入れました。

申し入れ項目は、以下の通りです。

1. 運転見合わせから運転再開までの状況を時系列で、関係列車名、関係者等を含めて詳細に明らかにすること。
2. この事象による列車への影響、旅客への影響、設備損傷の詳細、沿線の施設や住民の方への被害の有無、等について明らかにすること。
3. この事象が発生した原因を詳細に明らかにすること。
4. 運転再開までに、9時間以上の時間を要した理由を明らかにすること。
5. 今後の対策について明らかにすること。